

関係各位

病害虫防除所長

令和元年度病害虫発生予察技術情報（第1号）の送付について

普通期稲におけるスクミリンゴガイの防除対策について

5月の巡回調査の結果、早期稲におけるスクミリンゴガイの発生面積が県全体で平年よりも多く（平年比；263%）、発生程度が高いほ場も多く見られています（表）。

平成30年12月から平成31年2月までの平均気温は過去10年で最も高かったことから越冬量が多いと考えられ、普通期稲でも多発することが予想されます。今後は、ほ場での発生状況に注意して、下記の対策を心がけて下さい。

記

「防除対策」

- 水路から本田への侵入を防ぐため、取水口、排水口に金網などを張る。
- 発生水田では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行うとともに、貝や卵塊を捕殺する。なお、寄生虫が感染している恐れがあるため捕殺は素手で行わないように注意する。
- 薬剤防除は止水期間中に行うとともに、農薬使用基準を遵守する。

表 早期稲におけるスクミリンゴガイ発生面積状況（令和元年5月中～下旬調査）

	甚	多	中	少	合計
本年	-	220.2	1446.3	2061.1	3727.6(ha)
平年	-	12.0	427.7	975.2	1414.9

注) スクミリンゴガイの発生予察基準

25株あたりの生貝数: 少; 1～2 中; 3～15 多; 16～100 甚; 101～